

トランジション・タウン 文京 気候非常事態宣言 ～持続可能なゼロエミッションのコミュニティへ～

年々厳しくなる猛暑、記録的な暴風雨をもたらす巨大台風、暖かすぎる冬、早すぎる春の訪れ。今、世界中で誰もが感じている異常気象。これは、自然のゆらぎに加えて人類の活動によって排出される温室効果ガスによる地球温暖化が大きな要因と言われています。

ここ文京区でも、2019年には台風15号の暴風や19号の大雨に見舞われました。文京区内には土砂災害の警戒区域が15箇所あり、うち11箇所が特別警戒区域に指定されています。また、東京都が作成した神田川が氾濫した際の浸水予想地域にも文京区内のいくつかの区域が含まれています。避難準備の警報を受けて、避難したほうがいいのか、どこに避難すればいいのかと不安を感じたという人も少なくないでしょう。

台風は、海面温度の上昇でできた水蒸気が上空に運ばれ、巨大な積乱雲となることで生じます。地球温暖化が進むと、大気中の水蒸気量は多くなり、さらに高温の海水の層が厚くなることで巨大な台風が発生しやすくなります。今後その規模はさらに大きくなり、発生頻度も高くなることが予測されています。観測史上最大と言われるような自然災害が、今後毎年起こり、その影響が益々甚大になっていく可能性がある、多くの専門家が指摘しているのです。

2020年から本格始動する温暖化対策の新たな国際的なルール「パリ協定」では、「産業革命前からの気温上昇を2℃より低い状態に保つとともに、1.5℃に抑える努力を追究する」ことを目標に掲げています。そして、気温上昇を1.5℃に抑えるためには、2050年までにCO2排出量を実質的にゼロにする必要があります。今、大きな転換期を迎え、一人ひとりが、暮らし方、生き方、在り方を見直すべき時に来ています。

トランジション・タウン 文京区は首都東京の23区内のほぼ中央に位置する文京区でスタートした、都会のトランジション・タウンです。都会のど真ん中でありながらも、江戸の風情が残る緑の多い文京区には、子供からお年寄りまで多くの人々が暮らしています。誰もが心地よく健やかに住み続けられるまちを次世代につないでいけるよう、“持続可能なゼロエミッションのコミュニティ”を目指して、気候変動／温暖化のための「緩和」と「適用」のアクションを積極的に進めていく決意を表し、ここに気候非常事態を宣言いたします。

《TT文京の気候変動／温暖化対策への基本となる4つの柱》

- 1.地域にある資源(人、もの、しくみ)を活かし、互いに助け合いながら、地域で自立する暮らしへと移行する
- 2.Co2の排出量をゼロにするため、再生可能エネルギーへとシフトする取り組みを地域の仲間に共有し実践していく
- 3.消費行動のあり方を見直し、何を・どこの・誰から・どのように・どれだけ買うかを常に意識し、消費だけでなく都会での自給力を高められるような創造的な暮らしを推進する
- 4.文京区また他の地方自治体や地方議会とも協力し、23区から東京都、さらに日本全体の気候非常事態宣言を促す

《TT文京からの提案：気候変動／温暖化対策にもなる持続可能な日々の暮らし》

- ・ 普段からご近所で顔が見えるネットワークづくり
- ・ 誰もが簡単にコミュニケーションがとれるツールの活用
- ・ 徒歩または自転車での移動
- ・ ソーラーパネルなど独立型の発電
- ・ 生ごみコンポスト
- ・ 家庭菜園
- ・ 屋上緑化
- ・ 窓の断熱による省エネ
- ・ 公園や街路樹の落ち葉で堆肥づくり
- ・ 街路樹の剪定枝で炭づくり
- ・ 災害時にも快適なコンポストトイレ
- ・ 非常食にもなる保存食づくり

その他いろいろ、みんなで一緒に実践していきましょう。